

2014インターバイク・ラスベガス展 出展参加報告

本年も米国最大の自転車展示会であるインターバイク展が去る9月10日から12日にかけて米国ラスベガスで開催された。展示場は昨年マンダレイベイ・コンベンションセンターに移り、本年もこの展示場が使用された。展示会事務局によると、全体の展示面積は過去最高となった2013年とほぼ同じで、出展ブランド数も1,400強でこれも昨年とほぼ同じであった。また来場者数は2013年に比べ僅かに減少したが、昨年から設けられた最終日の一般消費者向け開放措置に関しては来場者数が2013年比で31%も増加したということである。展示会事務局の発表したプレスリリースによると、展示会の成否について、来場者数はもちろん重要な指標ではあるが、展示会の質こそが最も重要であり、多くの小売店が新しいブランドに接し発注を行ったり、企業幹部に会い、更にセミナーに参加し視野を拡げたりネットワーク化に成功したという話を聞いており、これらのことから今回のインターバイク展は成功であったというインターバイク副社長の総括を紹介している。実際に本年もにぎやかで活気のある展示会であるという事に変わりはなく、特に初日は非常に多くの方が来場し歩くのが困難な箇所もあった。

当協会は本年もこの展示会にまとまった小間を確保し共同出展企業を募集のうえ、共同出展を実施した。最終的に11社の共同出展企業にお集まりいただく事ができ、微力ながらこれら各社の対米輸出促進支援を行った。当協会共同ブースは昨年とは若干位置が変わったものの、展示場中央の良い位置が割り当てられた。今後更に共同出展を拡大し充実させていきたいと考えているので、ご関心のある向きは是非遠慮なくお問合せいただきたい。

展示会の概要

展示会の名称：2014インターバイク国際自転車展

(2014interbike INTERNATIONAL BICYCLE EXPO)

会 期：平成26年9月10日～12日(アウトドアデモと呼ばれる屋外新モデル試乗会が9月8日・9日に実施された)

会 場：米国ネバダ州ラスベガス市 マンダレイベイ・コンベンションセンター

主催者名：エメラルド・エキスポジションズ

入場者数：昨年に比べ僅かに減少(昨年は「昨年比7%減と発表」、一昨年は25,536人であった)、来場小売店数も昨年とほぼ同じ(昨年は「8%増と発表」、一昨年は4,160店であった)。一般消費者来場者数は、750名であった昨年を31%上回った。

出展ブランド数：1,400強で昨年とほぼ同じ

展示面積：昨年とほぼ同じ(昨年は320,000平方フィート(約29,600㎡)で過去最高であった)

尚この展示会はビジネスに特化した展示会であり、最終日に設定された顧客感謝日を除き一般消費者の入場は認められていない。またメディア登録をした人以外は会場内での写真の撮影も禁止されているほか、出展者は許可を得た場合を除き他の出展企業の小間に立ち入る事も認められていない。

1. 展示会の模様

9月10日～12日の3日間、マンダレイベイ・コンベンションセンター南館の1階でインターバイク展が開催されたほか、地下のフロアでヘルス・フィットネス機器の展示会も同時開催された。

来場者は会場の入り口で受付をし、中央の通路を通り会場内へ入場する。1階の会場は扇形のような形状をしており、A～Dのゾーンに分けられ、ゾーンBにトライアスロン、ゾーンCにマウンテンバイク及びBMX、ゾーンDにアーバン及び電動自転車の専用展示コーナーが配置され、これらのほか屋外には、DEMO TRACK@interbike と銘打った試乗ができるコースが設置されていた。



展示会場入り口



会場入口に設置されたモニュメント

展示会への入場は、商談会であることから1日目、2日目はバイヤーに限定し、3日目は一般消費者の入場も許可された。例年通り多くの来場者でにぎわい特に初日は会場全体が混雑した。しかし最終日に設定された顧客感謝日について、実際に来場した一般消費者の数は昨年に比べ増加したと事務局から発表されたものの、多くの一般消費者が来場したという印象は持たなかった。

更に展示会事務局によると、3日間の総来場者数は昨年に比べ僅かに減少したという事であるが、その理由について、ユーロバイク展との日程の近さ、激しい風雨による航空ダイヤの乱れと高速道路の通行止めが挙げられた。

また、同時開催されたヘルス・フィットネス機器の展示会は、フィットネス機器需要が2008年以来落ち込んだままであることに加え、製品開発サイクルが平均6～7年と長いため毎年出展する意味があまりないことが意識され、出展企業数・来場者数とも減少したと発表されている。

尚、展示会規則には写真撮影や他社小間への立ち入りを含め厳しい内容が定められているが、会場全体には今年もおおらかな雰囲気が流れていた。

(1) 完成車の展示

完成車は、ロードバイク、マウンテンバイク、クロスバイク、BMX、街乗り用のアーバンタイプ、クルーザー、電動自転車等あらゆるものが出展されていたが、これまでに比べロードバイクが減り、マウンテンバイクやBMXが増えているように感じられた。ロードバイクの需要は米国では頭打ちとなっていることが貿易統計からも確認されている。

電動自転車は、専用展示コーナーが設定されたが、このコーナーはそれほど大きいものではなく、電動自転車だけを出品する企業はそれほど多いとは言えなかった。しかし完成車各社とも展示車種

の中に電動自転車が含まれているところは多く、また欧州の電動ユニットの製造企業も出展したため、注目は集めていた。関係者の話を聞くと、米国でもいよいよ電動自転車が増加するだろうという意見のひと、米国ではスポーツ需要が殆どなので電動自転車は増えないだろうという意見の人の両方がいた。

また、マウンテンバイク、BMX 及びトライアスロン車にも専用展示コーナーがあり、それぞれの自転車及び関連ウェア、部品・付属品などがまとめて展示されており、各々専門の出展企業が集められわかりやすくなっていた。

更に前述のとおり会場の駐車場を利用して DEMO TRACK@interbike と銘打った試乗会も行われた。



駐車場を利用した試乗会 DEMO TRACK@interbike

(2) その他

部品の展示については、今年も各種部品メーカーが数多く出展していたが、一部出展規模を縮小した企業もあった。例年通り変速機、ブレーキ、ホイールなどの部品からシューズ、ウェア、バッグなどの小物類まで展示されていた。この他、サイクルコンピューター、トレーニング機器などの展示もあった。また前述のとおり欧州の電動ユニットの製造企業も出展していた。

各国共同出展についてであるが、日本の他、イタリア、台湾、中国が共同出展を行っていた。イタリア共同出展は、今年もパビリオン全体が赤と白の配色で上手くまとめられており、今年も出展規模が更に大きくなり全体の面積が大幅に広がっていた。イタリアの事務局職員の話では共同出展企業数は 37 社とのことであった。このイタリアパビリオンは当協会共同小間の目の前である。この他台湾パビリオンの共同出展企業数は 35 社、会場の奥の方に位置する中国のパビリオンの共同出展企業数は 56 社であった。

2. アウトドアデモ

展示会の開催前の 9 月 8 日、9 日にアウトドアデモと呼ばれる完成車メーカーによる新モデル試乗会が実施された。アウトドアデモの会場は従来と同じで、展示会場から約 30 分のボールダーシティ、ブートレグキャニオンである。この会場へは展示会場から出ているシャトルバスで移動することができる。参加者の多くは、試乗するのに相応しいウェアを着て、ヘルメットなどを持参していた。今年も初日に特に天候が悪く、雷や大雨・洪水の心配をしながらの開催であった。主催者や出展企業の話では、この悪天候は予想されていたことであり雨が降って砂埃もたたず、気温も低くひどい日焼けもしなかったため却ってよかったという事であった。しかし初日の実際の来場者は少なかったようである。2 日目は天候が回復し、結局 2 日間の来場者数は昨年並みであったと事務

局から発表された。

3. 来年のインターバイク展について

今年も展示会事務局から、来年のスケジュールについて早々に発表された。2015 年も本年と同じラスベガスのマンダレイベイ・コンベンションセンターで開催され、会期はおよそ一週間遅れ 9 月 16 日～18 日の予定である。またアウトドアデモはこれに先立つ 9 月 14 日、15 日に開催されることになっている。

4. 当協会の共同出展について

当協会は、本年は昨年と同じ 14 小間を確保し共同出展を行った。当協会共同小間は、会場の中央、イタリアのパビリオンの隣の良いエリアに割り当てられた。本年の共同出展企業数は昨年より更に 1 社多い 11 社となった。共同小間全体で日本の出展をアピールするよう紅白の「JAPAN」のパネルを共同小間の前後左右に建てるなどしてブースの装飾を行い、共同出展各社の販売促進活動に繋げた。今回の共同出展企業は、株式会社シャノア、株式会社ヨシガイ、二九精密機械工業株式会社、株式会社インタージェット、株式会社加島サドル製作所、株式会社三ヶ島製作所、株式会社日東、株式会社エヌエスケーエコーマーク、株式会社スギノエンジニアリング、サンスター技研株式会社、株式会社タンゲセイキの 11 社である。

2014 インターバイク・ラスベガス展当協会共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所	電話 F A X ホームページ	主な出品物
株式会社シャノア CHAT NOIR (RIN PROJECT)	〒111-0036 東京都台東区松が谷 1-2-3 ニュー松が谷マンション 1 階	03-3842-2883 03-3842-2889 http://www.rinproject.com	ウェア類
株式会社ヨシガイ DIA-COMPE JAPAN	〒571-0008 大阪府門真市東江端町 7-25	072-884-8020 072-884-8030 http://www.diacompe.co.jp	ブレーキ、 ヘッドセット等
二九精密機械工業株式会社 FUTAKU PRECISION MACHINERY INDUSTRY	〒601-8454 京都市南区唐橋経田町 33-3	075-661-2931 075-661-2937 http://www.futaku.co.jp	完成車
株式会社インタージェット INTERJET	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 2-7-38 新大阪西浦ビル 100 号	06-6393-3611 06-6393-3822 http://www.interjet.co.jp	フレーム
株式会社加島サドル製作所 KASHIMA SADDLE	〒580-0014 大阪府松原市岡 1-116	072-333-3594 072-333-1973 http://www.kashimax.co.jp	サドル
株式会社三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 埼玉県所沢市靴谷 1738	04-2948-1261 04-2948-1265 http://www.mkspedal.com	ペダル
株式会社日東 NITTO	〒334-0013 埼玉県川口市南鳩ヶ谷 3-23-7	048-286-7771 048-286-7770 http://www16.ocn.ne.jp/~nitto210	ハンドル、 シートポスト等

株式会社エヌエスケーエコーマー ク NSK ECHOMARK	〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-16-3	03-3207-4004 03-3207-3339 http://www.nskechomark.co.jp	自転車ウェア用 素材
株式会社スギノエンジニアリング SUGINO	〒630-8144 奈良市東九条町 287-1	0742-62-5311 0742-62-5320 http://www.suginold.co.jp	クランク、チェ ーンリング等
サンスター技研株式会社 SUNSTAR ENGINEERING	〒525-0044 滋賀県草津市岡本町字大谷 1000-16	077-562-6860 077-562-6874 http://www.sunstar-engineering.com	電動アシスト ユニット
株式会社タンゲセイキ TANGE SEIKI	〒590-0940 堺市堺区車之町西 1-1-26	072-224-9990 072-224-9991 http://www.tangeseiki.com	ヘッドセット等



株式会社シャノア



株式会社ヨシガイ



二九精密機械工業株式会社



株式会社インタージェット



株式会社加島サドル製作所



株式会社三ヶ島製作所



株式会社日東



株式会社エヌエスケーエコーマーク



株式会社スギノエンジニアリング



サンスター技研株式会社



株式会社タンゲセイキ

尚、当協会では2015年インターバイク展においても引き続き共同出展を実施する予定であり、当協会宛の共同出展申込を本年年末にかけて受け付ける事を計画している。米国でブランドを確立させる事により、そのブランドが世界に展開されていく事も考えられると思われる。共同出展にご関心の向きは是非遠慮なくお問い合わせいただきたい。

当協会本部事業部連絡先電話番号：03-6409-6921

当協会本部 HP <http://www.jbpi.or.jp/>

以 上